

わたしたちの街に新しい発見

ふ♥れ♥あ♥い

いかた

1月号

No.9
平成18年
1月1日発行

生涯学習だより

発行■伊方町教育委員会 編集■生涯学習課 印刷■(株)豊予社

地域の発展は“人づくりから”

“二名津地区”



地域・家庭・学校が一体となって将来を担う子どもたちの育成に努めましょう。

今月の主な紙面

- 年頭所感
- 生涯学習講演会
- 公民館だより
- 佐田岬裂織り展
- 学校通信
- 伊方スポセンだより
- 町見郷土館から
- 佐田岬民俗ノート
- 図書館だより
- 人権学習シリーズ
- 広報 文芸

毎月第2日曜日は「家庭の日」です。

1月のテーマ

“希望を語り合おう”

(実践方法)

- 家族そろって今年の目標をたてたり、新しい年の生活設計について話し合おう。

年頭所感

新年明けましておめでとうござい
ます。

皆様におかれましては、ご家族
お揃いで清々しい新春をお迎えの
ことと存じます。

旧年の四月一日、三町が合併し
新伊方町が産声をあげ、一郡五町
から一郡一町へと大きく様変わり
をいたしました。学校数は小学校
十一、中学校四、合計十五校、児
童生徒は、小学生六百十三名、中
学生三百三十
三名、合計九
百四十五名に
なりました。
旧町では経験
したことのない
教育環境の
下での出発で
ありました。



伊方町教育長 田村ヤエ子

記念すべき合併初年度にあたり、
伊方町教育委員会といたしまして
は新しい町にふさわしい教育土壌
づくりや基盤整備に努めて参りま
した。新伊方町の教育行政の推進
につきまして格別のご理解とご支
援・ご協力を賜り、誠にありがた
く厚くお礼申し上げます。

新伊方町の土台は西宇和です。
多くの先人・先輩が、地理的な悪
条件を克服しながら確かな知恵と
文化を蓄え伝え残してくれました。
その継承と進展は、この地に生き
ぬいていく後輩として当然の責務
であります。現在まで五町で築き

上げてきた西宇和の文化と教育を
これからは伊方町が継承すること
になりました。新しい佐田岬の半
島文化を主役であります皆様と共
に創造してまいりますと存じます。

新町としての教育基本方針を「地
域の特性を生かしながら、家庭教
育・幼児教育・学校教育・社会教
育・文化活動等生涯学習活動の各
分野にわたる教育行政を総合的に
推進していく」ことにしました。

学校教育では、子どものための
安心・安全な学校づくり、基礎学
力の確かな定着、個性を生かした

努めます。郷土に誇りをもち、笑
顔あふれる人が集う町づくりを積
極的に推進するため、更なる努力
をいたす所存でございます。

合併初年度はひたすら「顔合わせ」
に徹しました。二年目は「顔合わせ」
を基にした「心合わせ・力合わせ」
で地域の活性化と明るい町づくり
を目指したいと存じます。喜びの
風薫る町新伊方、小さくてもきら
りと光る地域社会の担い手にふさ
わしい人材育成が重要な課題であ
ります。皆様方のご支援・ご協力
を切にお願い申し上げます。

「地域の活性化と明るい町づくりを目指して！」

指導等に努めてまいります。

社会教育面では、住民ニーズを
的確に捉えた学習機会の提供、生
涯学習センターや図書館利用の推
進、公民館活動を通じた地域づく

最後になりましたが、皆様のご
健勝とご多幸を心からお祈り申し
上げまして新年のご挨拶といたし
ます。

謹んで新年の

お慶びを申し上げます

- 教育委員長 阿部博文
- 教育委員 西川喜祐
- 教育委員 塩崎幸生
- 教育委員 松田光一

生涯学習講演会を開催

各種社会教育関係団体が一
堂に集い、伊方町生涯学習講
演会が12月11日(日)、伊方町
生涯学習センターにおいて開
催されました。

開会行事に続いて、平成17
年度伊方町体育功労者表彰が
行われ、個人5名、団体1チー
ムが褒賞の榮に浴されました。
終了後、「まちづくりの新た
い風」と題して愛媛大学非常勤
講師の若松進一先生をお招き
し講演会を行いました。

先生からは、今までの経験

をもとに、地域づくりは、地
域のいいものを発見し、いい
ところを認め合いそれが繋がっ
ていけば、地域を楽しくする
し、面白くできる。発想の転
換と実践することの大切さを
訴えました。

参加者もこの講演会をと
して、人、町づくりに対して
の新たな価値観を見いだせる
いい機会になったのではない
でしょうか。



公民館だより

歩こう大会

— 三崎公民館 —

11月23日、三崎歩こう大会が開催されました。

コースは、三崎公民館前から伽藍山までの往復約14kmです。

当日は、晴天で最高の歩こう大会日和となり、20名の方の参加がありました。

参加者は道中ゴミを拾いながら町の文化財「伝宗寺の大楠」や木々の紅葉、色づく果樹園など



秋の色に染まった自然を楽しみながら佐田岬最高峰の山を目指しました。

また、到着後はみんなで芋掘り体験を行ったり、釈迦の洞やミニ西国33カ所等伽藍山の文化財巡り、三崎湾を見ながら昼食をとる人など思い思いのスタイルで、深まりゆく秋の一日を過ごし、三崎公民館までの帰路につきました。

練って、回して、陶芸教室

— 中央公民館 —

中央公民館では、伊方町地域振興センターにおいて、毎月第2・4日曜日に陶芸教室を開催しています。現在、伊方地域31名、瀬戸地域1名、三崎地域3名の計35名が受講しており、土を練り、色を付け世界にひとつしかない作品づくりに、心静かに没頭しています。



手作りの「牛鬼」で厄除け祈願

— 瀬戸公民館 —

瀬戸公民館では、8月下旬から『牛鬼の頭づくり教室』を開催し、この程見事に完成することができました。

この講座は、昨年、初の試みとして開催しましたが受講者等から好評の声が多く本年度も公民館講座に取り入れられました。型紙切り、粘土付け、色付けと作業が進むにつれて「牛鬼」らしく



～伝統の技と心を後世に～



佐田岬裂織り展



裂織り(オリコ、ツズレ)は、佐田岬半島で暮らした先人の生活の中で生まれた織物です。

古布やはぎれを細かく裂き、よこ糸にして織る裂織りは、手織りの素朴さと布の持つ独特な風合いがあります。

裂織りは、貧しかった岬の暮らしの中でリサイクルとして生まれた織物です。

佐田岬半島の裂織りを、唯一守り続けて来た織物師の政木吉春さんと、その指導を受けて3年前に発足した佐田岬裂織り保存会(代表 小林文夫)の皆さんによる作品展です。

消滅しつつある技を復活し、新たな歩みを見せる裂織りその魅力に触れてみてください。

【期 間】 平成17年12月1日～平成18年2月28日

【場 所】 伊方町生涯学習センター 4F 企画展示室

【展 示 者】 伊方カスリ工場(政木吉春氏)

佐田岬裂織り保存会(三崎オリコの里 コットン)


問い合わせ先

伊方町生涯学習センター 電話(0894)38-1020

(内線855)

女性団体連絡会主催 講演会のお知らせ

社会の進展や生活様式の変化に伴い、ますます関心が高まっている環境問題について、身の回りから見直し、私たちのライフスタイルについて考えてみませんか。

- ◇日時 平成18年2月8日(水)13:30~15:20
- ◇場所 伊方町中央公民館 3階研修室
- ◇演題 「暮らしの視点で考える地球温暖化問題とエネルギー
～いま、私たちが考えること、できること～」
- ◇講師 消費生活アドバイザー
秋庭悦子氏 
- ◇対象者 どなたでもOK
- ◇受講料 無料
(受講希望者は生涯学習課へ2月3日(金)までにご連絡ください)
- ◇連絡先 38-2661

※ 1月開催予定の第4回ライフアップ講座は、都合により2月に開催いたします。(募集案内は2月号に掲載)

行事のお知らせ

◆伊方町成人式

- とき 平成18年1月3日(火)10時~
- ところ 伊方町生涯学習センター

◆三崎健康マラソン大会

- とき 平成18年1月3日(火)13時~
- 集合 三崎総合体育館前

◆伊方健康マラソン大会

- とき 平成18年1月8日(日)10時~
- 集合 町見体育館前

◆瀬戸駅伝大会

- とき 平成18年1月8日(日)9時30分~
- コース 四ッ浜地区体育館前~三机小学校グラウンド

◆三崎駅伝大会

- とき 平成18年1月8日(日)10時~
- コース 串分館前~三崎総合体育館

◆伊方町PTA研究大会

- とき 平成18年1月15日(日)8時40分~
- ところ 伊方町中央公民館

◆瀬戸地域成人講座

- とき 平成18年1月29日(日)10時~
- ところ 瀬戸町民センター

子どもの登下校時等の安全 確保にご協力下さい!

広島県(平成17年11月)及び栃木県(平成17年12月)で連続して発生した女兒殺傷事件は、社会に大きな衝撃と深い悲しみをもたらしました。特に、安全であるべき通学路で下校途中に発生した事件だけに、いつ、誰が被害にあうかもしれないという危惧を感じざるを得ません。昨今、県下各地でも多くの不審者情報が報告されており、子どもの安全を確保することが急務となっています。子どもの安全を確保するため、以下の点について、町民の皆さんにご協力をお願いします。

(1) 各家庭での子どもへの注意呼びかけ

- 身を守る合い言葉…いかのおすし
- 知らない人に、ついていかない
- 車にさそわれても、のらない
- もし何かあったら、おお声でさけぼう
- すぐにげよう
- すぐだれかに、しらせよう



家庭・学校・地域がひとつになって、未来を担う子どもたちを守りましょう。

- (2) 登下校時の巡回活動や通学路の要所に立つなどの見守り活動
- (3) 不審者や不審車両を目撃した際の警察や学校への情報提供

学校通信

ふるさとを愛する

二見つ子

二見小学校

『おみこしに みんなの夢のせ ワツシヨイシヨイ』のスローガンのもと、「ワツシヨイ、ワツシヨイ」のかけ声、「えーさーあー うれしめでのたの よーほいほい……」の牛鬼歌が、今年も校区内いっばいに広がりました。晴れ間の見えるスタードでしたが、途中、雨の中での「お祭りワツシヨイ大会」となりました。子ども向けの牛鬼・花みこし・動物みこしの三体が練り出し、雨にも負けず賑わいました。

練る場所は、13箇所ぐらゐありますが、どの場所でもまだかまだかと待っていてくださる地域の方々の温かな気持ちは、子どもたちの大きな励みにもなっています。元氣のよいかげ声にもつながってきます。

過疎化の進む中、いつま

でも祭りが続くことを子どもたちに託して、懇切ていねいに準備から当日まで指導してくださる、浜田孝二さんと佐々木重実さんに感謝しています。

少子化時代で児童数の減少が心配ですが、続く限り頑張りが、地域の方々の楽しみを一つでも多く残していきたいと思えます。また、この行事を通して、地域に親しみ、ふるさとを愛する気持ちをより一層高めていきたいと思えます。



朝の訪問者

三崎中学校

本校のグラウンドの北東部にあまり人が訪れることのないエリアがある。本年度、そこに園芸活動をするための畑が学級に割り当てられ、様々な野菜や花、ハーブが育てられていた。

運動会も近づいた9月のある朝、生徒が職員室に駆け込んできた。小さなイノシシが学校の畑にいたというのである。そして、なんと彼は、それから毎日出勤するようになつてしまったのである。やがて、小学生も見物にくるようになった。

本校のグラウンドの北東部にあまり人が訪れることのないエリアがある。本年度、そこに園芸活動をするための畑が学級に割り当てられ、様々な野菜や花、ハーブが育てられていた。

運動会も近づいた9月のある朝、生徒が職員室に駆け込んできた。小さなイノシシが学校の畑にいたというのである。そして、なんと彼は、それから毎日出勤するようになつてしまったのである。やがて、小学生も見物にくるようになった。

そこで作物は早々に収穫し、安全を考慮して捕獲檻を設置してもらった。しかし、そんな檻には見向きもしない。そのうち、グラウンド全域を駆け回る彼の姿が見られるようになった。ついにはグラウンドの真ん中にフンまでする大胆さを見せるようになった。

しかし、彼は、そこを縄張りとする野良犬との闘いに敗れ、姿を見せることもなくなり、イノシシ事件は幕を閉じたのであった。

本校は昨年度の串中学校との統合に続き、来年度は二名津中学校

「自主・創造・調和伝統に磨きをかける」

瀬戸中学校

本校の生徒には、伝統を受け継ぐだけでなく、更に上へと目指そうとする意欲をもった生徒が多い。運動会はもちろん、もつと工夫をもつと楽しく、もつと盛り上げようとする様々な活動で趣向を凝らしている。

その一つがボランティア活動。全校で空き缶拾いをしてみると、一番落ちていたのが、堀切大橋付近。そこで、「自分たちで瀬戸の玄関の堀切」をきれいにしよう」と決め、学期に一回奉仕作業を実施

や地域の多くの方々に支えられ、進取の意気を發揮し、充実した学校生活を送っている。これからも皆様の温かい応援をお願いします。

「がんばるぞ！」



ボランティア清掃活動



と統合する。二名津中にもかつてパンダ犬が毎日遊びに来ていた。共に生き物に好かれる自然豊かな学校のようなのである。この両校の学風を受け継いだ、新しい三崎中学校に期待してほしい。

子ども会学習会「茶道教室」を開催

―町見公民館―

11月28日・29日の2日間、九町小学校の4年～6年生の児童（希望者）と保護者・教職員の16名が町見公民館を会場にして「茶道教室」を開きました。

この事業は教育集会所事業のなかの子ども体験学習として位置づけられており、社会教育における人権に関する学習会を総合的に推進することを目的としているものです。

「茶道教室」の講師は九町の野田宗久先生で、濃茶を練ること

から点前順序をまちがえないこと、美しい点前で心をこめるところ等の作法について指導していただきました。

参加した児童は、茶道を体験することで忙しい日常を忘れ、いつもとちがった空間でゆったりと過ごすこと、集中し自身を見直すこと、相手をもてなすことで出会いを大切にすること等、日本文化の総合芸術であると言われている「茶の道」を熱心に学びました。



学校や地域行事等で忙しく、また、事件事故が多発する社会ではありますが、ゆとりのある生活をし相手を思いやる心を育ててほしいと思います。

伊方スポーツセンターをより

謹賀新年

あけましておめでとうございます。
旧年中は、伊方スポーツセンターをご利用いただき、まことにありがとうございます。
今年も引き続きのご利用をお待ちしております。



1月4日(水)より通常どおり開館いたします

- 詳しいお問い合わせは、下記にご連絡下さい。
- 伊方町役場(生涯学習課) ☎ 38-2661
- 伊方スポーツセンター ☎ 38-1100
- ☎ 38-0776



小中学生ふるさと学習作品展で特別賞

伊方小学校4年の畑中

ひよたん名人松田さん

由起江さんと向上海渡さんが、県生涯学習センター主催の小中学生ふるさと学習作品展において見事特別賞を受賞しました。

この作品展は、同センターが「学社融合」を推進するため、「みて歩き、しらべて回る、えひめの有名人大発見」というテーマで、夏休み中の自主研究作品を募集したもので、県下から1281点の応募があり、その内の14点に選定され特別賞を受賞した

「ひよたん名人松田さん」という研究テーマで、ひよたんを作り続けて50年の松田亀久雄さん(湊浦)取材し、実際に自分達でひよたん作りに取り組みだ成果を壁新聞により発表したものです。



『続伊方町誌』発売中！

旧伊方町(現伊方地域)の町誌、『伊方町誌』(1987)の続編が出版されました。郷土館でも販売されています。
町内の方1,575円 町外の方3,150円

◆今月のきょうどかん◆

2006年 1月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

■—おやすみ

休館日は都合により、変更する場合があります。

TEL・FAX 39 - 0241 (不在の場合38 - 2661生涯学習課) / 開館時間9:30~16:30 / 休館月ほか



名取編

「まちなみ探検隊が行く」

町見郷土館から

11月20日、名取地区のまちなみ探検に行きました。好天に恵まれ、案内役の木村明人先生(九里四里の会案内人)や佐田岬みつ隊、飛び入りも含む一般参加など19名で名取地区のまちなみを見学。石垣の美しさに圧倒され、名取の歴史や文化を満喫しました！



現在、この森は、貴重な自然遺産としても注目されています。なんと推定樹齢四〇〇年は経っているかというカクソの木や、シイの大木が確認されているほか、近隣では珍しいタブノキの群落があるのも注目すべき特徴のひとつです。この森では、西

瀬戸地域の小島地区には、「宮の森」(伊方町指定天然記念物)と呼ばれる森があります。かつての小島小学校(昭和61年(一九八六)に三机小学校に統合)の上なので、地元の方には、おなじみの場所です。さてこの宮の森、現在はうっそうとした森ですが、その名前からもわかるように、かつてはここに天満宮の小さな社がありました。天満宮の「天神祭り」には、人々が旗を持って寄り集まり、豆にお砂糖をつけたものなどを作って、一晩おこもりしていたそうです。しかし、戦前頃を最後に、現在の住吉神社に合祀、社はいっしょに跡形なく崩れてしまったのです…。

小島の宮の森

佐田岬民俗ノート 8



小島 宮の森 (2005年11月撮影)

宇和群内のタブノキの中では、ベスト10に入る幹周三〜四m級の木(※が複数確認されているのです。(二〇〇一年 さんきら自然塾調査)「鎮守の森」として、畑や宅地などに開墾されることなくきたことが幸いしたのででしょうか、何百年かかって形成され、奇跡

※環境庁の基準では、地上一三〇cmの高さの幹周りが3mを越えると、「巨樹・巨木」と認定されるそうです。あなたの近所にありますか？

参考文献『瀬戸の文化財』(一九八八年改訂 瀬戸町教育委員会)『巨樹銘木・八西ギネス』(二〇〇一年 さんきら自然塾)取材協力 小島地区のみなさん

的に今日まで遺つてきた「宮の森」貴重な歴史自然遺産、小島の誇りとして、大切にしたいものです。



伊方町立図書館



今月の新刊

- ブリズン・ボーイズ／マーク・サルツマン著, 三輪妙子 訳
- ぼくとひかりと園庭で／石田衣良 著
- したたかな植物たち
- 老後の居場所
- めまい・難聴・耳鳴りはここまで治る
- ティーン・アイドル／メグ・キャボット 作, 代田亜香子 訳
- Guide&Photo 旭山動物園／今津秀邦 写真・著
- 貝の帆／丸山健二 著
- 夢のなか(慶次郎縁側日記)／北原亞以子 著 ほか



新成人の皆さんに、ぜひ読んでほしい本

- 人を信じるということ／島田裕巳
- いつかパラソルの下で／森 絵都
- その日のまえに／重松 清
- 優しい音楽／瀬尾まい子
- さおだけ屋はなぜ潰れないのか?／山田真哉
- プロ論／B-ing 編集部[編]
- ちゃんと話すための敬語の本／橋本 治
- 悲しい本／マイケル・ローゼン(作)
クエンティン・ブレイク(絵)谷川俊太郎(訳)
- チルドレン／伊坂幸太郎
- High&dry(はつ恋)／よしもとばなな ほか



利用案内

- 開館日／火曜日～日曜日
午前9時30分～午後6時
- 休館日／毎週月曜日(月曜日が祝日のときはその翌日も)
祝日・月末図書整理日・年末年始(12月29日から1月3日)・蔵書点検日

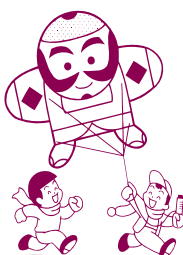
伊方町立図書館

伊方町湊浦1992番地
伊方町生涯学習センター2階
TEL(0894)38-0607 FAX (0894)38-0617

1月 図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

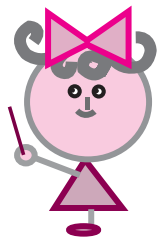
□…休館日



ピップスおはなし会のごあんない

1月のピップおはなし会(図書館ボランティア)を
1月14日・21日・28日に予定しています。

- ◆じかん：ごご2時から
- ◆ばしょ：図書館 おはなしコーナー
- ◆たいしょう：未就学児童・小学生低学年
- ◆ていいん：30名程度
- ◆ないよう：えほんのよみきかせなど
たのしいこといっぱい!





第57回 全国人権・同和教育研究大会に参加して

瀬戸総合支所長 三好賢治

三崎総合支所長 阿部松壽

三町合併後としては初の第57回全国人権・同和教育研究大会に総勢30人の一員として参加させていただきました。

大会は平成17年11月26日(土)～28日(月)の3日間、宮崎市内を中心として「学びつつ変わりつつ 創り上げよう人権文化! 太陽と緑のくに宮崎から」を大会テーマに、全国からおよそ20,000人が集い開催されました。

私にとっては20数年ぶり2回目の参加でした。

特に印象に残った「特別報告」と私が参加した第4分科会「人権確立を目指す地域の教育力」第1分散会の事例を紹介させていただきます。

特別報告は「あたいたつといっしょじゃがね」～私の「学びつつ変わりつつ」～と題して、部落問題に取り組む高校教師が発表され、「初めて部落出身であることを知った時の言葉…先生はあたいたつと一緒にじゃがね」のこと、「部落問題に立ち向かう仲間とともにふるさつを見つめ直した経験」や結婚問題や識字学級の取り組みを切々と語り、最後に一切の差別のない社会の実現に向けて、「共に前へ」と呼びかけ、会場の全員に深い感銘を与えました。

人権・同和教育は学校がすればよいものではなく、ましてや人権教育関係者がすればよいものではないことを、そして子供を持つ親として、自分自身の問題であることを再認識させられました。

分科会では「五中が近くなりました」～地域の人と出会って・演じて・つながって～…大阪府豊中市立第五中学校の人権啓発劇の取り組みについての発表です。人権劇はそう珍しいことではないでしょうが、地域を巻き込み、演じる人の大多数が住民であったとの報告でした。

「あかんね。」「ほんまのどこ」等々大阪弁で、最初、練習や準備を冷やかしながら遠巻きに見ていた第五中のやんちゃ坊主たちが、メンバーの真剣さに気づいていつしか手伝ってくれはったんやと、さわやかに語ってくれました。

私も役場に入る前、大阪に住んだ経験もあり、その頃のこととも思い出しながら聞かせていただきましたが、発表の最後になって「五中が近くなりました。」の意味に気づいて内心恥ずかしい思いがありました。

この取り組みに感動した地域の人が口々に発した言葉だったのです。

合併時に在籍する役場職員として、地域住民から「少し、役場が近くなりました。」とってもらえるよう頑張らねばと思った次第です。



第57回全国人権・同和教育研究大会が11月26日(土)から28日(月)の3日間「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」の大会テーマのもと宮崎市総合体育館をメイン会場に開催され参加をさせていただきました。

今大会は、各地での子ども、学校、家庭、地域社会等における具体的な人権課題及び人権・同和教育の実践創造の営み等、事実と実践にもとづく発表と討議がありました。私の参加した第1分科会は、部落問題の解決をめざす教育をどう創造するかというテーマでの意見発表がなされました。

この分科会では4本の事例発表がありましたが、その中の1つを紹介します。

滋賀県甲賀市から、結婚差別に関する発表です。10年前にムラの女性の結婚話しが、相手の男性の親の反対で、進まなくなりその女性は、前途を悲観し自らの命を絶った。そして彼女の死後その彼もその後を追うように彼女の誕生日にその後を追った。非常に悲惨な事件であります。この事件に対する取り組みとしてムラの子供を持つ親が立ち上がり「ムラの子供たちには、このような悲劇は二度と出かせたくない」「彼女の死を無駄にしないためにも、私たちに何が出来るか考えなければならない」という思いが淡々と話されました。その中で発表者の部落差別の問題と自分自身のかかわりについては、主体的にかかわることが自分の生き方を決定することだから楽しい学びがあることだと思ふようになった。また、部落差別という窓からはいろいろな人権問題が見えてくるということにきずいた。「自らが学び、行動し、体験し、交流する」ことで、偏見や差別意識はそぎ落とされていくものだということにも気がついた。ということが非常に胸打たれ、感動する言葉として残っています。

このような大会への参加は初めてですが、多くの感動と元気を与えられたように思います。

今後は自分自身の人権感覚を磨くとともに、部落差別を中心とした人権・同和教育に積極的に取り組んでいかなければと思っています。



報 文 芸

俳 句

伊方俳句会

山頂に白木の祠櫺紅葉
 寒造り男半裸の麴室
 上田 益男
 木戸 悦子
 池田 君子
 松坂 正子
 二宮寿賀子
 篠川 勝子
 篠川 晴子
 菊池ましえ
 門田 千枝

だしぬけの雪に着膨れ今朝
 の窓 宇都宮法子
 さきがけて岬に燃ゆる櫺紅
 葉 田中 初子
 突風にしがみつきたり崖野
 菊 広瀬 秀晴
 宇宙より亡夫の唄声寒の月
 山崎 美喜
 戻り船群れ来る鷗冬茜
 井上良枝
 潮騒の近くにありて冬桜
 上田サチエ
 野地菊の純白を手に凍つく
 にけり 渡辺日出子
 残月に薄雲流れ肌寒し
 宇都宮睦子
 野菊晴一湾百の鷗舞ふ
 井上まさを
 生涯を岬に踏ん張り大根引
 く 梶原 芳久

瀬戸北斗の会

風呂を焚く煙晩秋の空に溶
 け
 岸壁の釣り人染めて冬日落
 つ 井上奈津子
 白波の激しく寄せる冬隣
 短日や今日のひと日を振り
 返る 佐々木順子

三机句会

野にありてこそ美しき野菊
 かな 伊藤 植美
 秋岬流るる雲の速さかな
 野路菊の香りの中の落暉か
 な 水野千代美
 ぐみの実の真っ赤に熟るる
 岬の路 藤村富士子
 町花決定満開の石路の花
 冬浪や軍神の碑とうばめが
 し 松前シズ子
 千歳飴長き袋の地を摺れり
 中村 愛坊
 早立ちの足もと照らす寒の
 月 和泉 裕子
 光々と夜空明るし冬の月
 掃き寄せる落葉それ々こと
 なれり 山本タカエ
 ゆるやかな水面に映る崖紅
 葉 長谷美久仁
 参道の紅葉黄葉を踏み登る
 大野 律子
 合併の町花となりし石路の
 花 高地瑠美子
 畑仕事休みも惜しみ暮早し
 安田 増子

あみだ句会

岸壁に飛沫を揚げる冬の波
 二宮 清美
 九十の祖母と語りて箱火鉢
 木村香代子
 街路樹に豆球点すクリスマ
 ス 菊岡三代子
 通り過ぎてより木屑の香り
 かな 松本ツタ子
 どんぐりと遊ぶ子等なく押
 車 西上ミツヨ
 真赤なる日没早し冬に入る
 阿部ヨシ子
 雑草と思いし花よ萩見つけ
 菊池タツエ
 突風は土巻き上げて天高し
 中村千代香
 安くても農の営みさわやか
 に 池上 松子
 宮様御婚儀祝ふ野菊も満開
 に 池上 馨
 切干大根きりつつちぢむ浜
 風 池井 為吉

短 歌

かたばみ短歌会

白椿夜目にも白く庭に咲き
 数多の数の際立ちてをり
 菊池朱見子
 外国の若者の舞ふ黒田節大
 和心を槍振りかざし
 松坂 正子
 わが好む小玉みかんの味の
 良さ太陽からのエネルギー
 なり 梶田ミヨコ
 銀杏落葉に明るむ境内幼ら
 の弾む声して親しむつとき
 是沢美那恵
 大学のテニスコートに打ち
 合へる白球の音冬空にひび
 く 岡山 綱子
 大根下しにカブスをしぼり
 子の喜ぶ夕食楽し一人では
 なし 宇都宮すみ
 雨止みて強く日のさす冬日
 和籠る心を畑に紛らす
 武田美生子
 生かされて戌年七度年女薄
 く紅引く初春の鏡に
 梶谷千代子

